

令和3年度 第1回京都市上下水道事業経営審議委員会議事録

日 時 令和3年7月27日（火） 午前10時～正午

場 所 京都市上下水道局太秦庁舎 2階 研修室

出席者（五十音順，敬称略）

1 委員

伊藤 健	市民公募委員
浦上 拓也	近畿大学経営学部教授
兒島 宏尚	京都商工会議所専務理事
長嶋 みちる	市民公募委員
西村 文武	京都大学准教授（大学院工学研究科）
橋垣 艶子	京都市地域女性連合会常任委員
平山 修久	名古屋大学准教授（減災連携研究センター）
水谷 文俊	神戸大学教授（大学院経営学研究科）
山舗 恵子	株式会社京都リビング新聞社編集部長
山田 陽子	公認会計士・税理士

2 京都市

京都市公営企業管理者上下水道局長，次長，技術長
総務部長，総務部担当部長，総務部お客さまサービス推進室長，経営戦略室長，
技術監理室長，水道部長，下水道部長
事務局（経営戦略室）

次 第

1 開 会

- (1) 京都市挨拶
- (2) 本委員会の概要説明
- (3) 委員の紹介
- (4) 上下水道局幹部職員の紹介

2 委員長，副委員長の選任

- (1) 委員長の選任
- (2) 副委員長の指名
- (3) 委員長挨拶

3 進行の確認，会議の公開について

4 京都市水道事業・公共下水道事業の概要等について

5 議題

- (1) 令和３年度京都市上下水道事業経営評価（令和２年度事業）について
- (2) 令和３年度水に関する意識調査について

6 今後の予定

7 閉 会

内 容

1 開会

(1) 京都市挨拶（京都市公営企業管理者上下水道局長 吉川 雅則）

京 都 市： この度は委員に御就任いただき御礼申し上げます。新聞等でも報道がされているが、京都市の財政状況は近年の収支不足に加え、新型コロナウイルス感染症の影響により、非常に危機的な状況であり、令和7年度までの行財政改革計画の策定を進めているところである。

上下水道事業においても、水需要の減少傾向が続く一方で、老朽化施設の更新等に多額の財政需要が必要という構造的な課題に加え、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により水道料金・下水道使用料収入が想定を大きく下回る厳しい経営環境にある。しかしながら、水道・下水道は市民生活を支える重要なライフラインであり、良好な形で将来に引き継いでいくために、施設の改築更新や災害に強いまちづくりを着実に進めていく必要がある。令和4年度までの中期経営プランは終盤に差し掛かっており、また令和5年度からの新たな中期経営プランの策定に向けた非常に重要な2年間となっている。

委員の皆さまには専門的な知見や使用者の視点など様々な観点から忌憚のないご意見をいただきたい。2年間よろしくお願いする。

(2) 本委員会の概要説明

事 務 局： 資料の説明（資料1）

(3) 委員の紹介

事 務 局： 各委員を順にご紹介

(4) 上下水道局幹部職員の紹介

事 務 局： 上下水道局幹部職員を順に紹介

2 委員長、副委員長の選任

(1) 委員長の選任

平 山 委 員： 京都市上下水道局の経営に関する審議であることから、他都市の水道事業・下水道事業といった公営企業の経営に大変造詣も深く、京都市上下水道事業経営審議委員会の委員長を過去4期務めておられる水谷委員が最適であると考えます。

各 委 員：（異議なし）

事 務 局： それでは、水谷委員を委員長とする。

(2) 副委員長の選任

水谷委員長： 工学的な観点から、水環境工学が専門で、水処理をはじめとする水道事業・下水道事業の両方に通じており、これまでも京都市上下水道事業経営審議委員会の委員も務めておられた西村委員を選任したい。

各 委 員：(異議なし)

事 務 局： それでは、西村委員を副委員長とする。

(3) 委員長挨拶

水谷委員長： この度委員長を務めさせていただく水谷である。私自身は神戸大学で公益事業を専門としており、京都市にも長くかかわってきている。京都市は日本のみならず世界各国から観光客が訪れる日本の顔となる都市である。その京都市が水という誰が必要とする事業をしっかりと行うことは非常に重要であり、大きな責務があると考えます。委員の皆さまの専門的な意見や一般市民としての意見をいただき、京都市の上下水道事業が高い水準で運営できるよう議事を進めていきたいと考えているので、よろしくお願いします。

事 務 局： それでは、以降の議事進行は水谷委員長にお願いするので、よろしくお願いします。

3 進行の確認、会議の公開について

水谷委員長： 本日の議事進行について事務局から説明いただきたい。

事 務 局： 議事の説明、資料の確認

水谷委員長： 会議の公開について説明いただきたい。

事 務 局： 資料の説明（資料2）

水谷委員長： 本委員会の会議は原則として公開とし、議事録は後日公開することとする。議事録は2名の署名が必要であるので、今回は、伊藤委員と浦上委員にお願いする。

4 京都市水道事業・公共下水道事業の概要等について

水谷委員長： 今年度の主要事業を中心に事務局から説明いただく。

事務局： 資料の説明（資料3）

山田委員： コロナ禍の中で上下水道事業の経営について検討を進めて行くのは大変なことであると思う。P17で繰入金を令和7年度まで休止するとあるが、どの程度の額であるか教えていただきたい。また、繰入金を休止するため、経費の抑制が必要であり、施設の長寿命化等を推進すると記載されているが、そうすることで一時期に必要な大規模な経費は下がる一方で、毎年度の経費が増加するのではないかと考えるが、いかがか。

京都市： 出資金の休止を令和7年度まで計98億円、年間で約20億円予定している。これは全ての償還金を対象とするわけではない。約10年前の一般会計の財政状況が厳しかった際に、一般会計が負担すべき雨水処理負担金分について債を発行し、その償還金分を出資金として毎年度もらっていたものが対象である。

長寿命化について、P17にお示ししているとおり、下水道の施設で20～40年前に整備した施設が今後老朽化を迎え、その整備に多額の費用が必要となる。この費用を可能な限り長寿命化により削減することで、事業費を抑制し、休止した繰入金分の不足を解消することを想定している。

山田委員： 長寿命化を行うということは、日々のメンテナンスを充実させていく必要があると思うが、その際に必要なコストが増加するのではないか。

京都市： これまでからも悪くなる前にメンテナンスや修繕を行うなど、一時に多額の費用が必要にならないように長寿命化を継続して実施してきており、今後も同様の取組を継続して実施していきたいと考えている。

平山委員： P10～P11に記載されている減収について、令和2年度は想定外ということで仕方ないと思うが、今年度からはそのようにいかないと思う。家庭用の水需要は微増程度であり、事業用は大きく下がっていると想定される。巢ごもりや事業用で増減という記載ではなく、データをしっかりと捉えて示していくことが重要であると思うので、水量や料金をしっかりと数字で把握しておくことが必要である。

京 都 市： 御指摘のとおり，一般家庭用は２．６％程度増加したが，事業用はホテル・旅館等で４０％以上，それ以外にも飲食店や学校，百貨店等でも大きな減少がみられた。一方で全体の使用割合は家庭用が約７８％，業務用は約２２％であり，これらを総合して年間でマイナス２．１％の減少となっている。今後とも継続してデータ分析をしていく。

浦 上 委 員： Ｐ１０の水道の有収水量と下水道の有収汚水量が記載されているが，水道に比べ下水道が多いというのは，事業用の水量が多いということか。それとも分流式で不明水があるということか。

京 都 市： 京都市では染色業やホテル等事業用を中心に地下水を利用していることから，差異が発生しているものである。今回のコロナ禍でこれらの業種に影響があったことから，下水道使用料の大幅な減収につながっている。

浦 上 委 員： 平成初期あたりで下水道使用料収入が増加しているのは，地下水等利用専用水道の影響があるのか。

また，特に下水道使用料収入に貢献している事業にコロナ禍で大きな影響が出たと考えられ，現在もまだまだコロナ禍の影響が大きく残っているところである。京都市の特徴を考えると，大口使用者への新型コロナウイルスの影響は長期的なものになると考えられるが，見通しをどのように考えているのか。

京 都 市： 平成初期での下水道使用料収入の増加は，地下水の利用が進んだためではなく，下水道の面整備を終えたことによるものである。

今後の見通しについて，昨年度と今年度の実績を比べているとやや増加傾向と捉えているが，水需要の動向をしっかりと分析していき，その結果を踏まえながら今後の水需要を見通し，５箇年の計画策定を進めていく。

浦 上 委 員： 承知した。平成２９年度に地域水道事業と特定環境保全公共下水道事業で統合があったかと記憶しているが，それにより水量が増加したということか。それとも，観光により増加しているということか。

京 都 市： 地域水道事業と特定環境保全公共下水道事業での統合は平成２９年度に実施したが，水量は１％程度であり，大きな影響はない。また，同時期からインバウンドによるホテルの増加などはあるが，全体に占める割合は少なく，それによって影響があったという分析はしていない。若干増加しているのは，夏の猛暑などの気象の影響が一部あると考えている。

山 舗 委 員： Ｐ１６に記載のある保有資産の有効活用とはどのようなものであるか。具体的な利用例があれば，教えて頂きたい。

京 都 市： 保有資産の有効活用は未利用地、事業所の集約化による空き用地などを活用するものである。まずは、庁内での活用を検討したうえで、売却・賃借を実施している。具体例としては、太秦庁舎及び向かいの先端科学大学は山ノ内浄水場の跡地を活用しているものであり、同大学については賃借料をいただいているところである。

西 村 委 員： 上下水道事業の大きな役割は公衆衛生に寄与することである。今回のコロナ禍で公衆衛生の重要性も認識されていることと思われるため、衛生部局や環境部局等と連携して、改めて上下水道事業の公衆衛生への寄与をアピールして、事業費を確保する等についても検討していただきたい。

京 都 市： 昨年度に実施した水に関する意識調査において、手洗い・うがいの回数が増加したかを聞いたところ、増加したとの回答が多く、コロナ禍における市民の衛生への意識の高まりが見られた。本市においてもホームページや資料などで、手洗い・うがいの励行のために水道水を使用していただくよう PR しているが、今後も継続して実施していきたいと考えている。また、他部局との連携について、一般会計が厳しい中で、連携が図れる内容については確認していきたい。

兒 島 委 員： P 1 2 に「防災・危機管理の重要性の高まり」、「技術継承」を掲げている。技術継承はしっかり行っていただきたいが、そもそも人員が減少するというのは、重要なライフラインを守るという意味でも非常に心配である。そうならないためにも経営状況を改善することが必要である。水道水の重要性もアピールしていただき、水道水そのものを使用していただく仕掛けも必要なのではないかと思う。

京 都 市： 人員の削減については、効率化推進計画に基づいて実施しており、これまでから人員の適正化を図っている。これは民間にノウハウがあるものを民間委託しているものである。危機管理の在り方についても、本市の体制を強化すると同時に民間にも危機管理の役割を担ってもらうなど、大きな災害が発生した際に公民連携して対応できる体制を整えているところである。技術の継承については、水道・下水道ともに体験型学習施設を活用しながら行っていきたいと考えている。また、水道水の使用を喚起する施策については、水飲み場を市内各所に設置してマイボトルで水道水を飲むことを推進したり、多くの水量を使用するお風呂の利用促進に向けた広報を充実させること等により、京都の安全・安心でおいしい水を使っていただけるよう PR していきたいと考えている。

5 議 題

(1) 令和3年度京都市上下水道事業経営評価（令和2年度事業）について

事 務 局： 資料説明（資料4―1～4―2）

平 山 委 員： P5に示されているプラン全体の数値目標で、「事業に対する総合満足度」や「飲料水の備蓄率」の達成状況は×（バツ）となっているが、中期経営プランの目標は達成している。これは令和元年度の実績値を基に令和2年度の目標を立てた結果であると思うが、本来の目標による管理の考え方からすれば、目標を都度変えるのは良い方法とは言えない。×（バツ）とすることの是非は検討していただきたいが、×（バツ）とするのであれば、せめて中期経営プランの目標は達成していることが分かるように記載すべきである。

また、「配水池の耐震化率」や「合流式下水道の改善率」、「汚泥有効利用率」については、令和元年度からの上昇率を考えると、残り2年で大幅な上昇が必要となり、本当に達成できるのかが少し見えづらい。単年度で確認した場合と中長期で確認した場合の齟齬が発生しやすいと思うので、記載を工夫いただきたい。

京 都 市： 達成状況は×（バツ）と記載するだけでは誤解を生むことにもつながるので、表記は工夫したいと考えている。他の指標についても本当に達成できるのか分かりにくいという部分があるので、表記を工夫していきたい。

浦 上 委 員： 経営評価自体は本経営審議委員会で承認をするものか。

京 都 市： この場で評価をいただくというものでなく、市民の皆さまに分かりやすく伝えるという観点でご意見をいただきたいと考えているものである。

山 舗 委 員： P2「新型コロナがもたらす収入への影響について」で「事業用は」と記載があるが、少し分かりにくい表現ではないか。ホテル・飲食店等を明記した方が分かりやすいと思う。P3～P4のハイライトのページについて、単位が非常に目立ってしまっており、数値や取組自体を目立たせる方が良いと思う。

京 都 市： 事業用についての説明を追加するとともに、ハイライトのページの表現についても工夫したいと考える。

(2) 令和3年度水に関する意識調査について

事務局： 資料説明（資料5—1～5—3）

山 舗 委 員： 表紙の(3)の冒頭の「ご記入後」とは何を記入後なのか。次の文につながらないのではないか。また、P 2で1週間の入浴回数を聞く設問の中に「通常時」と「夏場」とあるが、「通常時」はいつのことか具体的に記載した方が良い。シャワーについてもお風呂と同様に分けた設問にした方が良いと考えられる。P 3問4の飲料水の備蓄について、質問内に記載している上下水道局が推奨している内容については、回答に影響が出るので、質問とは別欄にP 6・P 7と同様にマスコットキャラクターに説明させる方が良い。本アンケートは5, 0 0 0人に送付するものなので、広報ツールとしても有効であり、P 6・P 7に現状について色々お示しされているのは非常に良いと考える。他のページについても同じように伝えたい情報を入れた方が良いと思う。

京 都 市： 表紙の記載については検討させていただく。問1のお風呂の入浴回数についても分かりやすい表現へと改めさせていただく。シャワーの設問についても検討させていただく。問4の飲料水の備蓄について、上下水道局が推奨している内容については、知っていただきたい内容という旨がわかるように表現を工夫させていただく。

長 嶋 委 員： 前年のアンケートと比較しても見やすいものになったと思うが、やはり一般的なアンケートと比べると質問数が多いと思われる。景品も魅力的なものであればより良いと思うので、少し再検討いただけるとよいと思う。上下水道事業モニターをした際にも、学校のプールの活用をすることで水需要が増えるのではないかという意見もあったので、そのような意見を拾えるような設問項目を設けてもらえると良いと思う。

京 都 市： 御指摘のとおりまだ設問数は多いが、今年度は次期プラン策定の参考にするためである。来年度以降はより削減したいと考えている。プレゼントについて、昨年度はマイボトル、一昨年度は疏水物語を送付した。また、アンケート記載時にオリジナルボールペンをプレゼントさせていただいている。プレゼントについては、できるだけオリジナルのものにしたいと考えているが、検討については行っていく。また、自由記述欄も多く設けており、1つ1つの意見を見ている。市民からの様々な意見を拾えるような工夫を検討していく。

山 田 委 員： 今回の経営評価、アンケートについてコンパクトになっており非常に読みやすいものとなっていると考えている。P 1の「最近の使用水量」であるが、市民はいくら使っているのかというよりも、いくら払っているのかという認識の方が強いと思う。そのため、次につなげるためには「支払額」を聴取する方が

良いと思う。また、P 5 の水道の「安心度」では、安心な水であり飲めることについても質問していただいた方が良い。今回追加した P 6 ～ P 7 の現状に関する記述は市民が不安になるのでぎりぎりの内容であると思うが、市民に伝えるという意味で非常に良いことだと思う。ただ、問 1 1 の「独立採算制」は、もう少し伝わりにくい気がするので、少し分かりやすい表現をしていただける方が良いと思う。P 8 の※印が小さいので、大きくしていただきたい。問 2 1 の自由記述欄は少し小さいと思うので、大きくしていただきたい。

京 都 市： 使用水量の記載については、手元にお知らせが無いと記載が難しいところがあるので、検討させていただく。また、問 8 に水そのものの安心度に関する質問を追加するという点に関して、問 8 の質問はそういったことを聞く内容になっていない。問 6 で水質の安心感を聞いているのが、水そのものの安心度を聴取できるように工夫させていただきたい。独立採算制の部分は料金収入で経営を行っていることを示したいという意図であるが、より分かりやすいよう工夫していきたい。P 6 ～ P 7 については、上下水道事業における状況について知っていただきたいということで記載させていただいたものである。

浦 上 委 員： 資料 5－3 によると、ここ数年は毎年度調査を実施されているが、どのような目的か教えていただきたい。P 7 の問 1 3（2）「施設の更新費用について」は「1」しか選べないのでは。選択肢を増やす等、表現を少し工夫していただきたい。

京 都 市： 過去には 2 ～ 3 年に 1 回のアンケート実施であったが、現在はビジョンの中で指標に掲げているものもあるので、毎年度実施している。問 1 3 の（2）の選択肢の記載についても分かりやすい表現になるよう検討したい。

西 村 委 員： このアンケートの目的については、回答者に伝わるようになっているのか。

京 都 市： 本アンケートを送付する際に依頼文を同封するので、そちらに目的も記載することとしている。

西 村 委 員： 目的については簡潔に分かるように記載し、加えて局が様々な情報発信をしていることや本アンケートが事業運営に役に立っていることを示した方が良い。

6 今後の予定

水谷委員長： 次回の委員会は 1 2 月の中旬を予定しているのでよろしくお願いします。

7 閉 会

事 務 局： 長時間にわたりご審議いただき、御礼申し上げます。